

12
2020

令和2年

飯 舘

 いいたて



wakuwaku

目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「エゴマがつなぐ人の縁」
- 4 特集1「わくわくをたのしもう」
- 12 飯館百景「いいたてっ子発表会・赤蜻祭」
- 14 学びの広場「新米給食」ほか
- 16 特集2「ふくしま駅伝」
- 18 ほけんとふくし「むし歯0の子表彰式」ほか
- 19 報告のページ「木質バイオマス施設」
- 20 いいたて便り
- 22 話題のパレット
- 23 そのころはっ／おすすめ図書
- 24 おしらせのページ
- 25 入札結果
- 26 いいたてDIARY／ラオス通信。
- 27 こころのぼけっと／ひとのうごき
- 28 HOPES（ホープス）

エゴマ栽培が人の縁をつなぐ

手をかけた質の高いエゴマを価値ある商品に

村ではエゴマをジュウネンと呼びます

大久保・外内地区のエゴマ栽培は、地域の皆さんが出資して今年3月に法人化した「いいたて結い農園」が行っています。村の自宅に戻った人も、避難先で暮らす人も、都合に合わせて作業に参加。学生アルバイトなども加わり取り組みを進めています。今年は昨年の約3倍にあたる3.5haで栽培しました。

秋も深まり、多くの人が集まって収穫されたエゴマ。地区内にある作業所では、水洗いをし

たり、小さな異物を根気よくピンセットで取り除いたり、丁寧な処理が続いていました。手をかけたエゴマは、そのものを袋詰めして販売する他、エゴマ油の注文生産も行います。昨年開発したエゴマの焼き菓子も道の駅などで販売しています。

「関わる人の生きがいとなるような、価値の高い商品を生み出したい」。長正増夫代表（大久保・外内）は、広がる「結い」の場をうれしそうに見つめていました。

雑草を引き抜き、余分な葉を摘む夏の日の作業。無農薬での栽培を人の手が支えます。できる人が、できる時に。



11月には連日の収穫作業。人々が協力し、工夫を重ねた方法で、小さなエゴマの実を丁寧に集めていきました。



※写真撮影のために一瞬だけマスクをはずしていただきました



松林正一さん（大久保・外内／左端）と共に収穫作業に参加していたのは、避難先の福島市で意気投合した釣り仲間。村外の皆さんも周囲に打ち解け楽しそうに作業をしていました。木製の道具は、刈り取ったエゴマを打ち付けて実を取るもので、松林さんが制作しました。皆で意見を出し合いながら、よりよい作業方法を模索しています。

今月の話題 vol.8



いいたて結い農園

大久保・外内地区の皆さんが農作物の生産・加工を行う一般社団法人「いいたて結い農園」。作業所も地区内にあり、収穫したエゴマの商品化などを進めています。



結い農園に集う人たち

ここに至る物語も含めて価値がある。よいものを生かす商品化に関わりたい

あの広い畑を無農薬で。手を惜しまない皆さんを尊敬します

お話ししながら楽しんで作業している様子が素敵だと思います

人の手をたくさんかけて仕上げたエゴマ。その分おいくくなるのですね



11月13日の作業に参加していた皆さん。左端は地域おこし協力隊の二瓶麻美さん（草野）。昨年からの取り組みに関わっています。二瓶さんの右から、佐藤優花さん、竹内くるみさん、小林彩花さんは、福島大学の農林サークル「福桃（ももたお）」に所属しています。



今月の表紙

「地図づくりの小さな旅」に出発する矢野淳さんと松本奈々さん。どんな旅だったのか、詳しくはP6とP26の関連記事をご覧ください。スマートフォンのカメラを起動し、左下のQRコードを画面に映すと、YouTubeから、動く表紙が見られます。操作に慣れない方は詳しい人にやり方を聞きながら、見てみてくださいね。



わくわくをたのしもう



毎日をいかがお過ごしですか。

季節外れの暖かさが続いた11月も過ぎ、日に日に寒さが増しています。

冬支度が進む里山は、また来る春の物語を待っているようでもあります。

東日本大震災の発災から間もなく10年。

断たれたなりわいを、生きがいを、人のつながりを、

つなぎ直し、新たに作り、歩んできた道のりがあります。

「元通り」は難しい、だから「新しいふるさと」をつくろう、

いつしか私達は、そう励まし合ってきました。

これからは、この経験をした私達だからこそできる、ふるさとづくりを。

村に戻った人も、二地域で暮らす人も、新たに住む人も、交流して関わる人も一緒に。

多様性はそのまま可能性の広がりだにとらえることができます。

村をつくってきた先人がそうしてきたように、私達も手を結び合って、

ふるさとを「わくわく」させていきましょう。

**たくさんの「わくわく」で
ふるさとを輝かせよう**

「明日が待ち遠しくなる
ようなわくわくする楽しい
ふるさとを目指そう」。10月
に就任した杉岡誠村長の言
葉です。そして、「ふるさとに
愛着を持ち、前に向かって力
強く進んでいくことを楽し
み、喜びを共にする全ての人
が、ふるさとの担い手」。関わ
る人に内と外の隔てはない。
それぞれの想いを、飯舘村と
いうキャンバスに描いていこ
う」と呼びかけました。

「わくわく」は、楽しみな
気持ちや期待が、心にあふれ
ている様子を表す言葉。取
り組みや挑戦の過程も楽し
みながら、人々が「わくわく」
してふるさとに関わっていけ
たら、そこから活力や輝きが
増していくのは、想像に難く
ないところです。

**関わる人はみんな
ふるさとの「担い手」**

飯舘村は開拓の村。先人
達は、冷害や飢饉の壊滅的

な被害をたびたび乗り越え
て、村を形づくってきました。
あるものを生かし、人々が助
け合って、丹念につくり上げ
てきた美しい村です。

その里山の風景や、人々の
温かさが、村特有の魅力と
なっているのではないでしょ
うか。震災後に移住をした多
くの人が、村の風土や村民性
にひかれるものがあると語っ
ています。

震災と原発事故による全
村避難を経て変化した現状
が、新たなスタート地点とな
り、ふるさとづくりもここか
ら進んでいきます。来年度か
ら運用が始まる「第6次総
合振興計画」も、そうした視
点に基づいて策定されまし
た。現在地にしっかりと足を
踏みしめて、「わくわく」しな
がらふるさとづくりに取り
組んでいきましょう。

次のページからは、村の中
で生まれている「わくわく」
な動きや、出会った皆さんに
聞いた身近な「わくわく」
をお届けします。

地図づくりの小さな旅

11月16日から1週間、キャンピングカーで村をめぐる二人。出会いを楽しみ、普通の地図には載っていない、気になるスポットを収集しました。旅で見つけた知られざる名所を、これから地図に描いていくそうです。

二人は、村の新たな魅力を発掘し、デジタルコンテンツや映像を制作する新会社を立ち上げようとしていて、今回の旅はその助走となるもの。まさに村をキャンバスにした、わくわくの取り組みが始まっています。

「古いものに新しい視点が加わり価値が生まれる。歴史を残すというより歴史をつくる感覚です。開拓者魂を持つ村の人達は、新しい物を怖がらない。ですから私達も挑戦ができるのです」と矢野さん。松本さんも、「村にはいろいろなことができる。余地がある」と語ります。「現在の課題を乗り越えるために自分達のスキルを生かせる可能性も感じます」。

今回制作する地図は、公開後も、村の人から新たなスポットを教えてもらって、更新をしていく予定です。



住みやすく、人が温かい
気づけば自然に、ここで仕事を
続けようと考えていました



松本奈々さん

飯舘村地域おこし協力隊として
活躍中。クリエイターの活動拠
点づくりにも取り組んでいます

この村に未来を感じて
楽しく暮らし夢を叶える
若い世代の一例になれば



矢野 淳さん

東京藝術大学建築科を卒業。
父はふくしま再生の会理事長の
田尾陽一さん(佐須)



光のトンネルもつくりま
す
たくさんの皆さんに
楽しんでほしいですね

飯舘村商工会青年部
部長 山口昌洋さん

ハルミ塗装株式会社(上飯樋)
の専務。仕事で県内外を飛び
回る毎日。青年部部長は2年目



「ふかや風の子広場」にも素敵なイルミネーションが灯ります。問い合わせは☎0244-26-7957(商工会)

道の駅での「夏祭り」「秋祭り」の開催、オリジナルTシャツの販売、村主催のイベントへの協力など、ふるさとおこしの活動を数多く行っている商工会青年部。恒例となったイルミネーションを点灯する12月12日に向けて、準備は11月から進められていました。電気工事会社の部員を中心に、装置を手づくりしていたのです。

「若い人や子ども達が楽しめる企画を考えています。今年は新型コロナウイルスの影響で実現できないものもありましたが」と山口さん。それぞれに仕事が忙しい中、青年部が次々にイベントを成功させている秘訣は「チームワーク」とのこと。「致団結しているからね。みんな飯舘が好きだから。育ったところはいいものです」。さらに今年は12月11日・12日に、キャンドルナイトやワークショップ、青年部50周年を記念する花火の打ち上げも企画。熱き思いが冬の夜を彩ります。「よかつたと言ってもらえると、やりがいを感じます。若い人が住みたくなるふるさとにしていきたいですからね」。

仲間と灯すイルミネーション

わくわく進行中!

ぼくたちは
おいしいものに
わくわくします！



結城樹真さん

杉都珂瑛さん



かつての村民体育大会が
復活してくれたら
わくわくだね



小林丈二さん

菅野拓真さん



定岡忠臣さん

自然豊かな村は
ウサギやキジにも会えて
生き物好きには
楽しいですよ



高橋亮一さん
ひみつ基地のまちを勤務

一緒に住むこと
になった母から
料理を教わるのが
楽しみです



斎藤亜由美さん

花の名所をめぐり
私も自宅の庭で
花を育ててみたい



只野あけみさん

山登りが好きなので
村内の山々を
踏破したいね



山崎博之さん

眺めのよい場所での
一服は最高！

なかなか遠出ができない
けれど、その分夫婦で
庭いじりを楽しんでいます



山田スミイさん

山田静雄さん

子ども達が通う
こども園の行事に
いつもわくわく！
先生方に感謝です



遠藤志織さん
飯舘村教育委員会勤務

wakuwakuしてますか？

ふるさとでわくわくしたいこと、暮らしの中でわくわくしていること、飯舘村のわくわくポイントなどなど、自由な視点で皆さんのわくわくを教えてくださいました。

わくわくInformation ●35種類25万株のチューリップ畑



プロジェクトを共同で進めるふくしま未来研究会、株式会社ホクショー、地域創造研究所の皆さん。球根の植え付けが始まった農地にて

来春、佐須地区に、35種類・25万株のチューリップが咲く広大な花畑が出現します。この「飯館村農地再生プロジェクト」には、ふくしま未来研究会、株式会社ホクショー、地域創造研究所が共同で取り組んでいます。

旧臼石小学校に拠点を置く地域創造研究所は、村内の休耕地を活用し、新しい技術を取り入れた農業のモデルケースをつくろうと活動しています。交流人口の拡大につなげる観光農園事業もその一環。チューリップ畑は約2haで、球根の植え付けには、シルバー人材センターに所属する村民も参加しました。

花畑は佐須公民館に近い高台にあり、チューリップの後にも季節の花を咲かせて、面積も約5haまで広げる予定です。同研究所の石田みゆき代表は、「交流人口を増やし、農業を活性化して、若い人が戻れる活気ある村づくりを目指したい」と笑顔を見せました。

わくわくInformation ●村の食材を創作料理に生かしたい

11月23日、交流センター「ふれ愛館」で、「いいたての牛肉を使った創作料理教室&ライブ」が開かれました。「いいたての宝さがしをしよう会」(菅野クニ代表・宮内)が主催。県内の名店、メディアでも活躍する福田潤シェフを招き、牛肉や野菜など村の食材を使った創作料理を主題に、料理教室を開催し、その試食品評会には約40人が参加しました。

山田豊さん(関根・松塚)の黒毛和牛のしゃぶしゃぶ。多田直正さん(宮内)のナツハゼを使った「ナツハゼのポン酢」を添えて



品評会で創作料理を味わう参加者の皆さん

料理は、食材のよさを改めて教えてくれるものばかり。よいものの価値をさらに高めることができる、その可能性を一同が実感した品評会でした。同会では、レシピの開発を進め、品評会でも意見があがった、給食や道の駅での提供、加工食品の商品化なども目指していきたいと考えています。

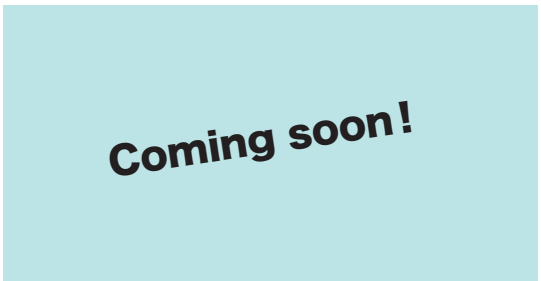
食事の後には、音楽ライブや、紙芝居「命のおにぎり」の上演も楽しみました。

●第6次総合振興計画がまとまりました



「総合振興計画」とは、ふるさとづくりの指針を総合的・体系的にまとめたもので、福祉・産業・教育・防災といったすべての計画の基本となります。第6次総合振興計画は、令和3年度から7年度までの計画で、「ものはりき算、こころは足し算の村づくり」「ちょっと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも いいたて村」をキャッチフレーズに掲げ、その考え方に沿って、各分野の事業案を示しています。村民と村職員等が、村の現状を見つめ、アイデアを出し合い、議論を重ねて完成した計画です。計画は、村のホームページで公開している他、ダイジェスト版を年度内に全戸配付する予定です。

わくわくInformation ●10大ニュースONLINE



いわゆるコロナ禍のもとでも、「10大ニュース」の発表を何とかみんなで楽しめないだろうか…悩みに悩んだ村の担当者がたどり着いたのは、インターネット上での動画発表案。只今計画を練っており、第、皆様にお知らせします。実現されれば初の試み。投票をはじめ、皆様の温かなご協力をお願いします。

わくわくInformation ●イルミネーション&キャンドルナイト

- キャンドルナイト●
12月11日(金) 午後4時30分から
善應寺(飯樋町)
12月12日(土) 午後1時から
交流センター「ふれ愛館」
キャンドルアーティスト、CANDLE JUNE
(キャンドル・ジュン)さんプロデュース
- イルミネーション点灯式●
12月12日(土) 午後6時から
交流センター「ふれ愛館」
点灯式終了後、打ち上げ花火が上ります
問 飯館村商工会 ☎ 0244-26-7957

●コンサートも同日開催♪

- クリスマスJAZZコンサート●
12月12日(土) 午後2時開場、2時30分開演
交流センター「ふれ愛館」
事前の申込みが必要です。(定員80人)
問 交流センター「ふれ愛館」 ☎ 0244-42-0072

飯舘 百景

いいたてっ子発表会 「赤蜻祭」

10月31日、「いいたて希望の里学園」で、義務教育学校となって初めてのいいたてっ子発表会「赤蜻祭」が開かれました。新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、対策を徹底した上で、観覧者を限定、時間も短縮しての開催となりました。

実行委員長で児童生徒会長の渡邊諒介さん（9年生）が、「皆さんの希望になれるようが

で垣間見えるような丁寧な発表。力を合わせて最後までやり遂げようとする気持ち、学年を問わず、児童生徒の表情にあふれていました。

仲間と一緒にいきいきと発表を行う児童生徒の姿は、まさに「希望」。拍手を送る会場全体が、誇らしさと感動に包まれていました。

「いいたて学」では、児童生徒が、ふるさとを知り、ふるさとを盛り上げるさまざまな取り組みを続けています。写真は、後期課程の「ラオスホストタウンプロジェクト」における「食料理省」の発表です。同省の生徒は、これまで開発してきたレシピを卓上カレンダーの形にまとめた他、ラオス料理でよく使われるパクチーと村特産のインゲンを使ったスープ「パクーゲンポタージュ」の開発・商品化も進めています。



深いメッセージを伝える5・6年生の舞台



3・4年生は身体表現・演奏・詩の朗読を堂々と



1・2年生の劇「おおきなかぶ」の一場面



先輩から後輩へ継承される田植え踊り

いいいて希望の里学園レポート

こども園 NEWS までの里のこども園
きらきら笑顔の発表会

11月21日、「までの里のこども園」で発表会が行われました。発表会のテーマは、「みんなが主役 笑顔輝く 発表会」。子ども達は、個性を発揮しながら、劇やダンス、かわいい歌を元気いっぱい発表しました。※感染症対策として、未満児、以上児に分け、2部構成で開催しました。



こども園 NEWS 元気いっぱい 笑顔いっぱい
こども園のハロウィンパレード

10月30日、役場庁舎が笑顔でいっぱいになりました。「までの里のこども園」のハロウィンパレードがやって来たのです。「お菓子をくれないといたずらしちゃうぞ」と大きな声が聞こえたら、あちらからもこちらからも満面の笑顔で職員が登場。思い思いのお菓子をプレゼントしました。「ありがとう」もきちんと言えて、最高にかわいいパレードでした。



イタネちゃんもハロウィンの仮装で子ども達を待っていたよ！



学園 NEWS 5・6年生が村長と米談義
新米を味わう給食



対話がはずみ品種による食味の違いなども話題に

11月9日、5・6年生が、杉岡村長、遠藤教育長と会食し、村で穫れた新米を給食で味わいました。今年は新型コロナウイルスの影響で、前期課程の米作りは見送られました。例年借りていた田んぼで作った新米を、佐藤博さん（二枚橋須萱／写真右）が無償で提供くださいました。新米は「里山のつぶ」という品種で、5・6年生は、甘みやモチモチした食感を味わっていました。また、村の農業について質問し、村長・教育長と対話をしました。



学園 NEWS 税金の役割を学んだよ
租税教室



積極的に質問をしながら税金を楽しく学びました

相馬税務署の職員を講師に、「租税教室」が行われ、6年生が「税金」について学びました。
この教室では、税金の仕組みや、多様な使われ方について、分かりやすく教えていただきました。税金への関心が高まった6年生は、社会科の学習内容や、身近なできごとと結びつけながら、さまざまな質問をして、学びを深めていました。
教室の終わりには、1億円の札束のレプリカを持ち、その重みを実感。同時に、国民が納める税金の大切さも感じ取っていたようです。

学園 NEWS までの里のこども園にて
園児と触れ合う実習

各クラスでの実習の他、はつぴょう会の練習も見学しました



今年は離れた場所からの観察実習

11月16日・17日に、9年生が、「までの里のこども園」で保育実習を行いました。この実習は、家庭科の授業の「環。触れ合いを通して幼児に対する理解や関心を高めるねらいで、毎年行われています。今年は新型コロナウイルスの影響で、直接触れ合うことはできませんでしたが、「楽しそう」「かわいいね」と幼児の様子をしっかりと観察。ワークシートを仕上げていました。

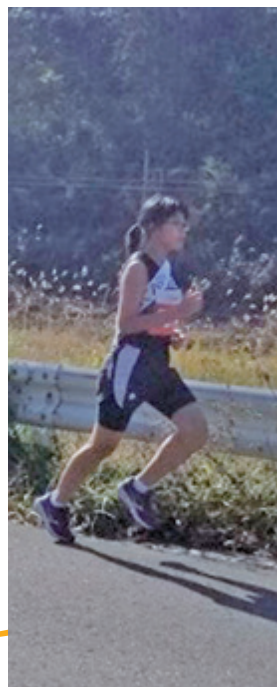


6回目の出場も活躍。アンカーを務めるのも4回目！



9区 高橋良太 選手

チームとして賞を獲得できたことがうれしい。自分のふるさと飯館村だと思っています



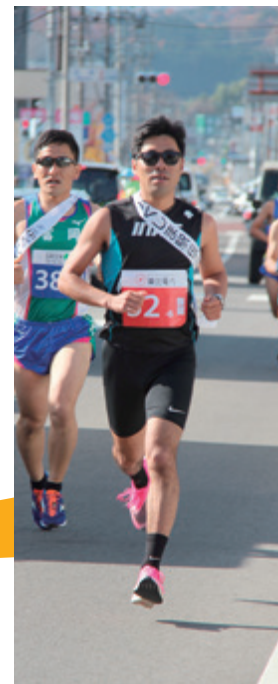
8区 杉岡佳朋 選手

初参加で走り切れるか不安だった。チームの皆がいてくれたことが力になって完走できた



7区 三浦有矢 選手

練習で村内を走ると村民から応援をもらえてうれしかった。駅伝を通して村が好きになった



6区 佐藤彰洋 選手

多くの方のサポートのおかげで参加ができた。敢闘賞という形で恩返しができたかと思う



5区 大内匡泰 選手

走ること村に関われることがうれしい。これからも走り続けたい



4区 高橋大和 選手

大会前日に足の張りがあり不安だったが完走することができてよかった

中学生から出場し次回大会で個人出場20回目となる大内選手。「村チームとして出場したい」と決意を新たにしていました



3区 大内龍太郎 選手

今年は満足な練習ができず不安だったが敢闘賞が取れてうれしい



2区 高橋隆聖 選手

初めての駅伝で緊張したがエールをもらい練習より早く走ることができた



1区 菅野裕日子 選手

120%の力を出したが悔しかった。両親、大学時代の友達がかけてくれた力になった

ふくしま駅伝 力走の記録

飯館村チーム紹介

総監督	林 英滋(濱田建設)
監督・6区	佐藤彰洋(南相馬消防署)
コーチ・9区	高橋良太(希望の里学園教員)
コーチ	向井 敏 (希望の里学園教員)
コーチ・3区	大内龍太郎(村社協)※主将
1区	菅野裕日子(村役場)
2区	高橋隆聖(希望の里学園9年)
4区	高橋大和(希望の里学園9年)
5区	大内匡泰(菊池製作所)
7区	三浦有矢(希望の里学園教員)
8区	杉岡佳朋(希望の里学園8年)
補欠	赤石澤歩美(村役場)
補欠	結城樹真(希望の里学園7年)
補欠	菅野拓真(希望の里学園7年)
補欠	渡辺 煌 (希望の里学園8年)
補欠	飯畑友貴(南相馬消防署)
サポート	杉都珂瑛(希望の里学園陸上部)
サポート	嶋原悠生(希望の里学園陸上部)



たて希望の里学園」に陸上部が新設されたことは、明るいニュースでした。部員の皆さんの取り組み、先生方のご協力が、駅伝チームの大きな戦力となりました。

陸上部は、「いいいてスポーツ公園」などで練習を重ね、一般選手と共に合宿なども行いました。初めて走る生徒に対しては、先輩ランナーがアドバイス。スタッフも練習から大会当日まで、サポートを続けました。そうした日々は、子どもと大人が「駅伝」でつながり共に過ごす貴重な時間ともなりました。大会というゴールを迎えて行われた解団式では、支えてくれた方々や仲間への感謝の言葉が続き、チームのつながりが、いっそう深まっていきました。

ふくしま駅伝 チームワークでつかんだ敢闘賞

「ふくしま駅伝」は、福島県のスポーツ振興、各市町村の「ふるさとおこし」を目的に、平成元年から開催されています。今年の第32回大会は、「郡山ヒロセ開成山陸上競技場」をスタート、福島県庁前をゴールに全9区間で開催され、飯館村チームの熱き力走が「敢闘賞」に輝きました。

チームを支えた いいいて希望の里学園

飯館村チームは、感染症対策を行いながらの練習、県外在住のふるさと選手が参加できないなど、厳しい条件がある中で、単独チームを編成すべく準備を重ねていきました。

そのような中で、今年度、「いい

全区間を完走！ 敢闘賞に輝きました

11月15日、第32回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が、郡山市をスタートに、福島県庁までの9区間、50.2kmで行われました。

今年の「ふくしま駅伝」は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年の16区間を短縮し、出場選手の人数を減らして行われました。

飯館村チームは、選手、スタッフらが一丸となり、全区間を力走しました。記録は3時間9分22秒で、総合順位は46位。昨年からの7つ順位を上げ、入賞を逃したチームの中から前回大会の順位を大きく上回った市町村に贈られる「敢闘賞」に選ばれました。

木質バイオマス施設整備事業 住民説明会

令和3年3月に運用を終了する環境省の仮設焼却施設(蕨平地区)の跡地で木質バイオマス施設を整備する計画について、11月1日に蕨平地区の住民を対象に説明会が開かれました。7月に事業者として採択された「飯館バイオパートナーズ株式会社」からの計画説明と地区住民との意見交換が行われました。

この木質バイオマス施設は、木材を燃焼させ、その蒸気で発電した電力を国の固定価格買取制度により売電することとしています。これにより、震災後利用が停滞していた村内や周辺地域の間伐材等の森林資源の有効活用を図ると共に、林業の再生や森林整備の促進、雇用の増加が期待されます。

村では以前から仮設焼却施設の跡地利用について地区と話し合いを続けてきています。

杉岡村長は、「基準を超える灰が出ることになれば、この灰については法律により国が責任を持って処理すべきもの。しかしその処分先は村だけでは決められない。引き続き国や県、関係する市町村と連携をして協議を進め、解決していきたい。大切なことは、地元の皆さまと今後も協議を重ねることであり、村にとっても地域にとっても重要な計画となるのか見極めていきたい」とあいさつを述べました。

続いて、事業者から、燃料(木材)調達や放射性物質対策などの事業計画について説明がされました。

Q&A 意見交換で出された主な質問と回答は次のとおりです。

Q 計画どおりの燃料(木材)調達は可能か? 村内だけでは難しいのではないかな?

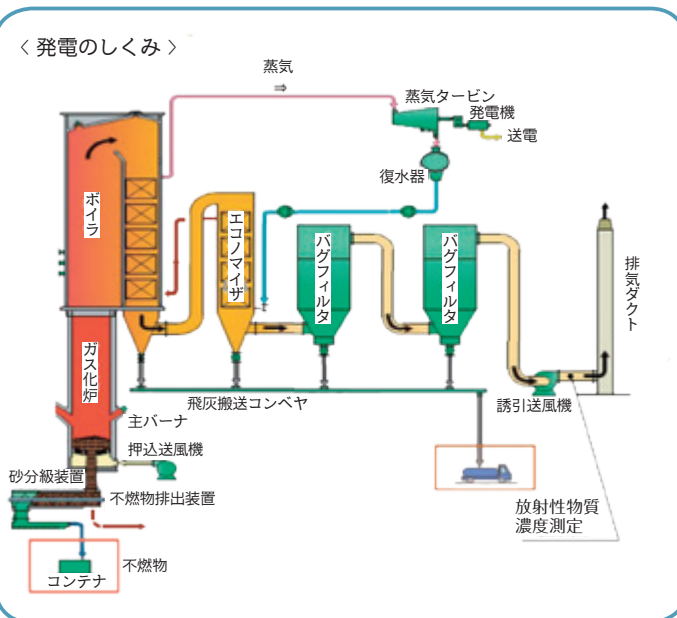
A 村内だけで必要量を収集することは難しいと考えています。パーク(樹皮)については相双地方など村外からも収集、間伐材は村内を中心に広く収集を考えており必要量は確保できる見込みです。

Q 使用するフィルターの安全性(放射性物質対策)は?

A 現在の環境省の仮設焼却施設では、今回計画のバイオマス施設より(濃度の)高い放射性物質を焼却しているが、漏えいなどの事故は起きておらず、技術データの蓄積もできています。今回のバイオマス施設で受け入れる燃料(木材)の放射性物質は、仮設焼却施設と比べ10分の1から100分の1と考えられますが、環境省の仮設焼却施設と同じ安全対策を実施するため、安全には自信を持っています。

最後に志賀三男区長が「バイオマス事業は行政区の皆さんの理解と賛同を得て、了解してきたものです。今日の説明会でより理解が深まったと考えます。今後も必要に応じて説明会を開催いただき、住民と事業者の相互理解をお願いしたい」と述べました。

村は引き続き、安心・安全な事業計画を事業者に求め、地区住民との意見交換等を図って参ります。



むし歯0の子
表彰式

親子で歯みがきががんばりました！

11月8日の「いい歯の日」に合わせて、3歳5か月児健康診査でむし歯がなかった子を表彰する「むし歯0(ゼロ)の子表彰式」が、交流センター「ふれ愛館」で行われ、子ども達に、ごほうびの表彰状と記念メダルが贈られました。

村が令和元年度に実施した3歳5か月児健康診査でむし歯がなかった子は21人でした。

★令和2年度 虫歯0の子表彰者★

名前	性別	行政区	名前	性別	行政区	名前	性別	行政区
大井 夕楓	女	草野	佐藤 圭剛	男	前田	菅野 尚	女	蕨平
河野 滯夢	男	二枚橋・須萱	大谷 琉希奈	女	小宮	小山田 理大	男	前田
細杉 妃花瑠	女	前田	齋藤 零空	女	二枚橋・須萱	菅野 琥雅	男	宮内
佐藤 千畝	女	前田	三浦 鈴花	女	深谷	細山 晴在	男	飯樋町
高橋 煌芽	男	関根・松塚	渡邊 凜心	女	比叡	細川 珠那	女	上飯樋
高野 心結	女	大倉	佐藤 蒼汰	男	飯樋町	大井 裕稀	男	草野
佐藤 志歩	女	関根・松塚	菅野 葵	女	前田・八和木	※転出した方については、転出前の行政区を掲載しています。		

これからもずっと
むし歯0のために



- お子さんの歯磨きの後は、しあげ磨きを行いましょう。
- 歯に残りにくいおやつを選びましょう。
- かかりつけの歯医者さんを見つけ、定期検診を受けましょう。

口腔ケアで お口の健康を高めましょう！



11月13日、草野行政区が月に1回開いている地域サロンに合わせて、村地域包括支援センターが「口腔(こうくう)教室」を開きました。

教室では、福島県歯科衛生士会の歯科衛生士・長川圭子さんを講師に、口の健康を保つ方法や口腔ケアについて学びました。口の中を清潔にすることは、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の予防にもつながるそう。参加者は、メモを取り熱心に耳を傾けていました。

「口腔教室」の開催を希望する方は、包括支援センターまでご連絡ください。

問 飯館村包括支援センター ☎0244-42-1626



イタネちゃん
もはりきって
お祝い！



只野博之さん 瑞宝双光章を受章



ご自宅にて。只野さんと妻のあけみさん。「妻の支えがあって職務を全うすることができました」

この秋の叙勲で、只野博之さん(前田・八和木)が、瑞宝双光章を受章しました。瑞宝章は、社会・公共のために功労がある方に贈られる勲章です。只野さんは、42年間にわたり、前橋刑務所などで刑務官として勤務。入所者の更生に寄与した功績が認められました。只野さんは、長年の公務の足跡を振り返り、喜びと共に関係者への感謝を話していました。

定年退職をした昨年、只野さんは生まれ育った飯館村にUターン。ふるさとで、父の俊さん、妻のあけみさんと、新たな日々を送っています。

宝くじ助成事業 草野集会所に備品を購入

村では、一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業による宝くじの助成金を活用して、地域活動の活性化に必要な備品を整備しています。

今年度は、草野行政区が助成を受けて、震災後に建て替えた集会所の備品を購入しました。購入したのは、折りたたみイス60脚、会議用テーブル10台、冷蔵庫1台、プリントやスキャンができる複合機1台などです。備品が整い、行政区の活動や集会所がよりスムーズに行えるようになりました。



購入した備品の一部です。(右)ゼロックス複合機、(左)集会所に並べた折りたたみイス

飯館村の魅力を発信 “よい仕事おこし”フェア



SNSのフォローやふるさと住民登録などを条件に飯館産の花をプレゼント

各地の信用金庫が集結して全国の「よい仕事」を結ぶ大商談会「2020“よい仕事おこし”フェア」が、11月5日・6日、東京都大田区の「羽田イノベーションシティ」で開催されました。

「“よい仕事おこし”フェア実行委員会」と包括連携協定を結ぶ飯館村も、昨年に続きこのイベントに出展。感染症予防のため屋外に設けられた会場で、来場者と交流し、花き栽培のPRを中心に村の魅力を発信しました。

寄付をいただきました 飯館電力チャリティゴルフ

第2回「飯館電力杯 村民ゴルフ大会」の参加者の皆さんから、寄付をいただきました。

このゴルフ大会は、飯館電力株式会社(菅野宗夫社長/佐須)が主催し、10月20日に、伊達市の「霊山パーシモンカントリークラブ」で行われたものです。参加者は約30人で、大会の開催を通して、村への募金を行っていただきました。

10月28日、参加者一同を代表して、ゴルフ大会実行委員の荒利喜さん(飯樋町)が来庁し、杉岡村長に、寄付金30,782円を手渡しました。



寄付金を手渡す荒さん(左)。杉岡村長が「ありがとうございます。大切にさせていただきます」と受け取りました。

社会教育の充実に期待 社会教育委員研修会



人づくり、地域づくりにもつながる社会教育の大切さを再認識。講演に耳を傾ける委員の皆さん

11月11日、交流センター「ふれ愛館」で、飯館村社会教育委員の研修会が開かれました。

研修会に先立ち、新委員となる大島剛さん(関沢)、花井由貴さん(大久保・外内)に委嘱状が交付されました。また、遠藤教育長が「住民のニーズに合った内容で、質の向上を目指したい」とあいさつし、引き続きの協力を依頼しました。

研修会では、福島大学名誉教授で長年村に関わってこられた千葉悦子先生が、「これからの社会教育委員への期待」と題して講演を行いました。

ふるさとCM大賞 2年連続の受賞です

KFB福島放送が番組制作を行う「ふくしまの元気!応援ふるさとCM大賞2020」に応募した飯館村のCMが、ユーモア賞を受賞しました。昨年受賞した県知事賞に続く2年連続の入賞です。

今年は、県内28市町村がエントリー。8月から9月にかけてウェブ投票が行われ、審査結果は、10月31日放送の番組内で発表されました。

CMのタイトルは、「それ、いいいてっすね〜出会い編」。前作にも登場する「いい盾(たて)」の意外なルーツが描かれています。



思わずにやにやしちゃう作品。番組のHPで公開されています。来春からはKFBで30回放送される予定

その
ところはっ
教えてください
そのワケを
#18

空き缶で葺いた屋根はパッチワーク柄のようにカラフル。ポイントとなる部分にはお気に入りのビールの缶を配置。



木材や布地を再利用しながら自宅をリフォーム。素敵なテーブルセットも松田さんの作品です。

松田さんが自宅の入り口に建てた新しいあずまや。そのカラフルな屋根をよく見ると、見慣れたロゴやおいしそうな絵柄が。そう、なんとこの屋根、アルミ製の空き缶で、きれいに葺いてあるのです。「時間があるからね、ちよこちよこやっているの」と笑う松田さん。このあずまやで、お茶を飲んだりバーベキューをしたりできるよう、テーブルや椅子も製作中です。自宅裏の井戸にかけた屋根も、アルミ缶で葺いているところですよ。

もともと大工業をしていた松田さんは、建て替えず残した母屋のリフォームも、自分の手で続けています。通院の都合などで避難先に留まる家族と離れ、現在は村で一人暮らし。「広い家に一人はさびしいが」と感じながらも、自宅や農地に手をかけ、こんなに楽しいあずまやまで建ててしまいました。道の駅からもアルミ缶を引き取り、二つの屋根に約2400缶を使用したそうで、その根気とていねいな仕事ぶりに、感動してしまいます。

松田 直藏 さん
深 谷

話題のパレット

身近な話題を
お寄せください
☎0244-42-1613

DIY イベントでイスを製作



木材部分の表面をバーナーで焼いて
磨くとぐっとおしゃれな風合いに

村にクリエイターやアーティストの活動拠点をつくろうと活動している地域おこし協力隊の松本奈々さん(深谷)。活動拠点で使う家具作りを楽しむ、2回目のDIYイベントを、10月31日に開催。集まった村内外の参加者と交流しながら、古くなった学校のイスをリメイクしました。

カラフルな布を張って
こんな素敵なイスに生
まれ変わったよ



第2回「山の向こうから」を開催

一人ひとりの作り手さん
を訪ね、自分でそのよさを
確かめながら出店を
お願いしました。
村内のよいモノも
さらに紹介してい
きたいです



二瓶さん

11月1日、地域おこし協力隊の二瓶麻美さん(草野)主催のイベント「山の向こうから」が、やすらぎ工房前庭で開かれました。二瓶さん製作のテントがぐるっと会場を囲み、花、雑貨、刃物、食器、おいしいモノなどを盛りだくさんに。来場した皆さんは、作り手と対話をしながら、よいモノとの出会いを楽しんでいました。



寄贈の祝い着を貸し出します



坂本弘さん(草野)から、「白寿(99歳)」と「百寿(100歳)」のお祝いに着用した「祝い着」を、村に寄贈していただきました。「これから長寿のお祝いを迎える方に使っていただければ」とのことです。

縁起のよい祝い着を、ありがたく大切に貸し出しさせていただきます。

貸し出しを希望される方は健康福祉課福祉係までご連絡ください。

☎ 健康福祉課福祉係
0244-42-1633

「サバイバル」とは生き残るための作戦のこと。オールカラー漫画「サバイバルシリーズ」は、次々と襲いかかってくるピンチに、子ども達が勇気と科学の知識で立ち向かっていく冒険物語です。生き物、自然、人体、災害、環境問題、AI、宇宙…と科学に関するあらゆるテーマがそろっているのもシリーズの特長です。

さて、交流センターには、シリーズのどの本が置いてあるでしょうか？親子で探してみませんか？冬休みの勉強と読書に、交流センターの本を、ぜひご活用ください。

☎ 交流センター「ふれ愛館」
0244-42-0072

ドキドキハラハラ！ 楽しく読んで知識も身につく



科学漫画サバイバルシリーズ
「水族館のサバイバル 1」
ゴムドリco.文／韓賢東 絵
朝日新聞出版

交流センター「ふれ愛館」だより
冬休みおすすめ図書

入札結果をお知らせします

入札日／8月24日(単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
豊栄佐須線道路改良工事	29,150,000円	後藤建設工業(株)	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農業基盤整備工事（暗渠排水工）前田地区	17,490,000円	濱田建設工業(株)	令和3年3月上旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農業基盤整備工事（水路工）大久保・外内地区	39,237,000円	(株)東栄	令和3年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業（飯舘西部その1） 農業用排水路施設等補修工事（ため池補修）	16,170,000円	(有)渡建工業	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 神成線外	20,955,000円	濱田建設工業(株)	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 七郎内二ツ森線外	25,190,000円	濱田建設工業(株)	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 沢道線	46,750,000円	濱田建設工業(株)	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 中屋敷線外	36,190,000円	(有)福相建設	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 壁下線外	40,062,000円	(株)東栄	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 冬住2号線	25,685,000円	(有)渡建工業	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 花塚線外	26,290,000円	(有)福相建設	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 農道舗装工事 白石大火線 第1回工事	30,030,000円	(有)福相建設	令和3年3月下旬
農道舗装機能回復工事（草野字カヨウ地内）	30,250,000円	濱田建設工業(株)	令和3年3月下旬
農道舗装機能回復工事（八木沢字上八木沢地内）	44,770,000円	濱田建設工業(株)	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 測量設計業務 草野字宮内地内	85,580,000円	(有)武藤測量事務所	令和3年3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯舘西部その2） 用地測量業務 松塚字中迫地内	803,000円	(有)大内測量設計事務所	令和2年12月下旬
標準積算システム保守管理業務	604,120円	福島県土地改良事業団体連合会	令和3年3月下旬
飯舘村復興震災記録交流施設土木工事監理業務	5,665,000円	(一財)ふくしま市町村支援機構	令和3年3月下旬



お知らせ

太陽光発電所の起工式が行われました
関根・松塚地区で工事が始まります

新 たな太陽光施設「谷地向東・西太陽光発電所」が、関根・松塚地区に建設されます。

この発電所の整備・運営を行うのは、自然エネルギー事業を手掛ける「solar（ソーラー）SPV合同会社」で、7年越しで準備を進めてきた施設の建設が、村の復興整備計画の承認を受けて、進められることになりました。

11月18日、事業主と関連会社が起工式を行い、杉岡村長や地権者が出席しました。計画では、令和3年10月頃から発電を開始、その後20年間運用することを見込んでいます。

この発電所の出力は約4メガワットで、年間発電量は、一般家庭1400世帯分に相当します。

同社と村は協力協定を結んでおり、売電収入の一部が村に寄付される他、イタリアにグループ本社を持つ企業のネットワークを活用して、村の農産物などのPRにも協力をいただきます。



あいさつするsolarSPV合同会社職務執行者・齋藤稔さん

11月の村の動きと主なできごと

- 1日・木質バイオマス施設整備事業 蔵平地区住民説明会（交流センター「ふれ愛館」）
- ・交流イベント「山の向こうから」（やすらぎ工房飯館工場前庭）
- 4日・ふくしま駅伝 飯舘村チーム結団式（交流センター「ふれ愛館」）
- 5・6日・2020「よい仕事おこし」フェア 出展（東京都・羽田イノベーションシティ）
- 8日・むし歯0（ゼロ）の子表彰式（交流センター「ふれ愛館」）
- 11日・社会教育委員研修会（交流センター「ふれ愛館」）
- 13日・1歳6か月児・3歳5か月児健康診査（いちばん館）
- 15日・第32回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）（郡山市・福島市）
- ・伊丹沢行政区農地中間管理事業説明会（伊丹沢集会所）
- 17日・関根松塚行政区農地中間管理事業調印式（松塚集会所）
- 18日・読書メッセージコンテスト審査会（交流センター「ふれ愛館」）
- 19日・生涯学習講座「寄せ植え教室」（交流センター「ふれ愛館」）
- 20日・第10回農業委員会定例総会（村役場）
- 21日・までのりの里のこども園 発表会（までのりの里のこども園）
- 26日・第9回飯舘村議会臨時会（村役場議場）
- ・定例教育委員会（村役場）



〈ふるさと資源〉発掘図鑑

皆さんのおすすめの景色、好きなものを紹介するコーナーです。あなたの「推し」を広報紙に掲載してみませんか。掲載についてのお問い合わせは村づくり推進課企画係 ☎0244-42-1613までお気軽に。



makoto_sugioka 村には当たり前の風景はありません。庭、田畑、木々、川、山々を見れば、手をかけてきた、手をかけている人々の息遣いを感じます。

撮影 杉岡村長 ※Instagramから引用



撮影 高橋松一さん（二枚橋・須萱）
文化祭で展示されていたトラクターがかっこよかったため、パシャリ。こいつで作業してみたいな。

村には宝がたくさん。子ども、人、食、農、伝統、言葉、風景、心根。愛してやまないもの。それが「ふるさと資源」です。



ひとのうごき

(令和2年10月31日現在)

人口	今月(前月比)
男	2637人(-10)
女	2645人(-9)
計	5282人(-19)
世帯数	1838戸(-2)

10月1日～31日までの

◆◆人口動態◆◆

転入	2人
転出	13人
出生	1人
死亡	9人
(住民基本台帳人口)	

(10月21日から11月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。



おくやみ

氏名	年齢	行政区
庄司 千代	95	小宮
赤石澤 笑子	83	大久保・外内
村上 テルヨ	92	上飯樋
鎌田 タカ子	83	伊丹沢
赤石澤 幸子	88	小宮

ご冥福をお祈り申し上げます

地域おこし協力隊 いいたてDIARY ダイアリー

11月16日から1週間かけて、キャンピングカーで村内を巡りながらの地図作り企画を実施しました。「私だけが知っている小さな飯舘」をテーマに、小さな祠や小屋、岩や樹木の並びなど、村の人も知らないような風景を探す旅。途中神社や村民の方のお宅に停泊させていただきながら、普通の地図には載らないような隠れた魅力をたくさん発見しました。

夜はキャンピングカーで毎日プチ飲み会。お酒を飲む機会が減りがちな車文化の村では寝泊りできる移動式の飲み屋もありだなーと感じながら毎晩しつぽりお酒を酌み交わしていたのでした。

[Bound for IITATEプロジェクト]



Instagram



Facebook

キャンピングカーの旅が見られます



今月のライター

飯舘村地域おこし協力隊
松本 奈々さん

一緒にキャンピングカー旅をした矢野淳さんが作成する手描きの地図。広げると畳2枚分ほどの大きさになります！



佐野志帆さんの

ラオス通信。

vol.4

ラオスの豊かな自然

東京オリンピック・パラリンピック2020で村が「復興『ありがとう』ホストタウン」を務めるラオスってどんな国？佐野さんのレポートで素朴な疑問に応えます。きっとラオスが身近になりますよ！

佐野さんは兵庫県の出身。青年海外協力隊として現地で活動した経験をもとに、佐野さんが見て触れて感じたラオスを教えていただきます。



インドシナ半島の内陸にあるラオスは日本の本州ほどの広さの国土の7割ほどが山岳地帯で、タイとの国境にはメコン川が流れ、その両岸には山々が連なり原生林が広がる緑豊かな国です。首都ビエンチャンや観光地である古都ルアンパバーンなどの都市部においても、その美しい自然を身近に感じることが出来ます。この自然豊かなラオスでは、環境の保全性と持続可能性を考慮しながらアクティビティができる「エコツーリズム」を重視した観光業が盛んに行われています。例えば、メコン川に沈む夕日を眺めながらのクルージングや象とのふれあい、洞窟巡りやロッククライミングなどを楽しむことができます。ちなみに私もルアンパバーンで象使いの免許を取得しました。雄大な自然の中で大きな象と触れ合う体験は、私の心を癒してくれました。みなさんも一度ラオスを訪れて、この癒しパワーの虜(とりこ)になってみませんか。

一方、近年ではゴミのポイ捨てなどによって水源が汚染されたり、景観が壊されたりするケースが頻発しています。持続可能な社会の実現や自然環境の保全に向けて、環境教育の重要性も問われています。

象使いの訓練中！



次回は
ラオスの家族のあい方
を紹介します！

HOPES

ホープス セカンド

2nd

この村で楽しく家族で暮らそう

井上 祥行^{よしゆき}さん（大久保・外内）



福岡県福岡市の出身。介護福祉士として平成26年から「いいたてホーム」に勤務。平成30年に結婚。2人目の子どもの誕生を控え妻の絵美さんが郡山市内の勤務先を退職し、今年3月に家族で村に移住。

地元の福岡市で障がい者施設に勤務していた井上さん。震災のおよそ1年後、ボランティアで南相馬市の施設を訪れ、当時の状況の厳しさを体感。翌年にもプライベートで来県し「いいたてホーム」に足を運びました。入所者の生命を第一に考え、避難せずに運営を続けたホーム。入所者に寄り添う介護、人々の温かさにも心をひかれました。「自分にも



家族で暮らす村営住宅の縁側で。2歳になった長女の朝陽（あさひ）ちゃん、今年6月に生まれた長男の晴翔（はると）君と。「自然豊かで人が温かいこの村で、のびのびと育てたい」。

井上家は
今夏オープンした
「ふかや風の子広場」
の常連さんだ
そうです

できることがあるのでは。必要とされる場所で働きたい」。初めは驚いた家族も、考え抜いた決意を受け入れ、送り出してくれました。

勤め始めた頃は言葉や習慣の違いに戸惑いもありましたが、今ではコミュニケーションもスムーズ。施設内のイベントでギターの弾き語りをしたり、スポーツ公園で職場の仲間とフットサルをしたりと充実しています。移住前は二本松市から通勤していましたが、今では家族との時間も格段に増えました。

井上さんは都会育ちですが、「人が多い所より田舎が好き」で広々とした村の環境が気に入っているそう。「子どもと散歩をしていると皆さんが気さくに声をかけてくれます。迎え入れてくれたこの地域で、私達家族も楽しく暮らしていきたいです」。

編集後記

● 今月の広報作成中に掲載したい写真が上手く撮れず、確保できずで困っていたそんな時、村のホームページに村外の方から1通のメール。「飯館村の選手の写真を撮影したのでどうぞ」。はい、見事に写っておりました。感謝の気持ちと飯館村のもつ力を改めて実感です。（木幡）

● 切り絵のように青空を透かす広葉樹。ゆるやかな傾斜が雲に続く牧草地。グラデーションの魔法を使う紅葉の木。林の縁を丸く丸く進む小さな道。私にもあります。「ここ」というお気に入り景色。しかもたくさん。通るたびに愛でています。小さな「わくわく」です。（星）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。